



マッチングの難しさを学ぶ

# 熊本災害 支援報告

## 熊本市災害ボラ ンティアセンターに て 2016.5

避難所支援も体験

## 運営側ボランティアも経験

報告 松永俊夫

5月7日土曜日～5月8日日曜日

熊本市災害ボランティアセンターに登録して、二日間の支援活動を行ってきました。

参加したのは、やすらぎ訪問看護ステーションの山本朱音理学療法士、やすらぎ事務所の吉本聡事務員・相談員、松永俊夫の3名です。

支援内容は、1日目が避難所での清掃、環境整備、支援物資の運搬等でした。2日目は、ボランティアセンターでの運営業務にあたり、被災者から寄せられたニーズと当



日のボランティアとをつなぐマッチングという業

務で、被災者に直接電話して当日の訪問の可否と意向の再確認をして、持参すべき用具や移動で使用する車の駐車スペースの確認など、非常に重要な業務を任せてもらい、貴重な体験をさせてもらいました。左の写真は、事務所で依頼された支援内容を確認して、電話する準備をしているところです。

参加した吉本さんは、マッチングの難しさと、電話の向こうに感じ取れた被災者のいら立ちや切実さに胸を打たれたと話していました。

当日は800人のボランティアが必要なところ、連休の末日のため、集まってくれたのは午前11時で500人超という状況で、今後の支援活動の困難さを予感させるものでした。

### 避難所は統合の時期

初日に支援でお伺いしたのは、熊本市東区にある詫麻公民館で、翌週から学校が始まることに合わせて、体育館などをあけるため、避難所の統合が進められ、その準備のお手伝いでした。ホールを清掃して、マットレスの配置を考え、テーブルを並べたり、運ばれてきた物資の運搬や仕分けなども行いました。作業に参加した山本さんは、作業の合間にもっと被災者の方々に声をかけられたらよかったと、時間の使い方についても気づきを述べていました。下の写真はガムテープでホールに印をつけ作業にあたっているところです。



宿泊は、崇城大学が準備してくれたキャンプ場が利用でき、往復の高速代は事前申請で無料となり、様々な支えで活動することができました。